http//www.edu.pref.kagoshima.jp/　（通巻第２００４号）

指導資料　国　語　第 149 号

鹿児島県総合教育センター
令和元年 10 月発行

対象校種	小学校　中学校　高等学校 特別支援学校

これがイマドキの“学校図書館”
―主体的に学ぶために―

学校教育において学校図書館は，読書を通した豊かな心の育成とともに，確かな学力の育成の基盤となる重要な機能を有している。学校図書館の機能を最大限に発揮し，児童生徒が主体的に学ぶ学校図書館の利活用の在り方を取組事例を交えて提案する。

1　学校図書館ってどんなところ？

子供たちに学校図書館ってどんなところか尋ねると子供たちはどう答えるでしょう。

暗くてカビくさいな。

見つけたい本がすぐに見つけられたらいいのだけど･･･。

あんまり面白い本がないな。

居心地が悪いな。

教室から遠くて，開いているかわからないな。

2　学校図書館の目的・機能

子供たちの声全てを解決できるよう，３つの機能に対応する必要があります。

【目的】
- ○　学校の教育課程の展開に寄与すること
- ○　児童生徒の健全な教養を育成すること

読書センター
- 児童生徒の読書活動や児童生徒への読書指導の場

学習センター
- 児童生徒の学習活動を支援する場
- 授業の内容を豊かにし，その理解を深める場

情報センター
- 児童生徒や教職員の情報ニーズに対応する場
- 児童生徒の情報収集・選択・活用能力を育成する場

校長は…
- ○　学校図書館全体計画を策定
- ○　教職員の連携の下，計画的・組織的に学校図書館を運営

学校は…
- ○　校内組織を設け，円滑な運営
- ○　図書委員等の児童生徒の主体的な活動

学校図書館は…
- ○　「子供の居場所」としての機能の保持
  - →　開館時間（登校時間～下校時間），長期休業中の開館
- ○　各教科等における学校図書館の利活用
- ○　図書館の広報活動への積極的な取組（図書館便り，ＨＰ等）
- ○　他の学校図書館，公共図書館等と連携・協力

子供たちにとって魅力的な図書館とは，知的興味に応じて幅広い読書ができ，物語の世界に身を投じ，行ったことのない世界や人に出会い，世界観や人生観が無限大に広がっていくところではないでしょうか。そして本を通してまた人と人とのつながりができて，人を通して本を知る場所と言えます。

（１）小学校の取組事例の紹介（霧島市立青葉小学校）

霧島市立青葉小学校では，児童の読書意欲を向上させる取組を積極的に推進している。

【朝の読書の様子　１年生】

①　朝の読書

毎朝，始業前の８時５分から 15 分（10 分間）に実施している。**放送委員会の児童が校内放送でアナウンス**をして，クラシックなど**穏やかなＢＧＭを流す**中で行われる。学級文庫や図書館から自分が借りている**本を自由に選んで**読んでいる。児童の心が落ち着き，スムーズに授業に入ることができる。平成 29 年度にはその取組が認められて「第 11 回高橋松之助記念『朝の読書大賞』」を受賞している。

【交流の読み聞かせ】

②　多種多様な読み聞かせ活動

○　交流学級による児童同士の読み聞かせ（図書の時間）→上級生から下級生へ，下級生から上級生へ（１年⇔６年，２年⇔５年，３年⇔４年）の読み聞かせを行っている。選書については前週の図書の時間を活用。お互い交流することの良さを感じ，読む側も聞く側も真剣に取り組んでいる。特に**下級生から上級生の読み聞かせ**は上級生が感心するほどである。

【絵本コラボメニュー】

○　図書委員会児童による読み聞かせ（昼食時間）や担任以外の読み聞かせ，管理職，養護教諭，事務職員等全職員で実施。ＰＴＡ図書部の読み聞かせ→ＰＴＡ専門部として活動，図書館ボランティアによる読み聞かせ等の実施（学期ごと１回，学年で実施）→図書館ボランティアは保護者から募集，本の修繕や読み聞かせの実施。

○　給食時間の放送による読み聞かせ（２月の読書週間に実施）→**絵本に出てくるメニューを学校給食として献立**に組み込み，その絵本の読み聞かせを図書委員会児童が校内放送で行う。献立については，学校司書が栄養士と相談して決める。**味覚・視覚・聴覚で本の世界を味わう**ことができ，その後の図書への興味・関心につながっている。

【手作りブックトラック学年文庫】

③　環境づくりの工夫

図書館以外でも**本を身近に感じ，本を読んでもらう環境づくり**として，各学年の教室近くにその時期に学習で必要な図書を選書し，おやじの会**手作りのブックトラックに学年文庫**を設置している。このような本に囲まれる環境を作ることで児童は，少しの時間でも図書を読みふけったり，調べたいことを確かめたりしている。また，**新聞書見台**を３台設置したことで，新聞を読もうとする児童が増えてきている。

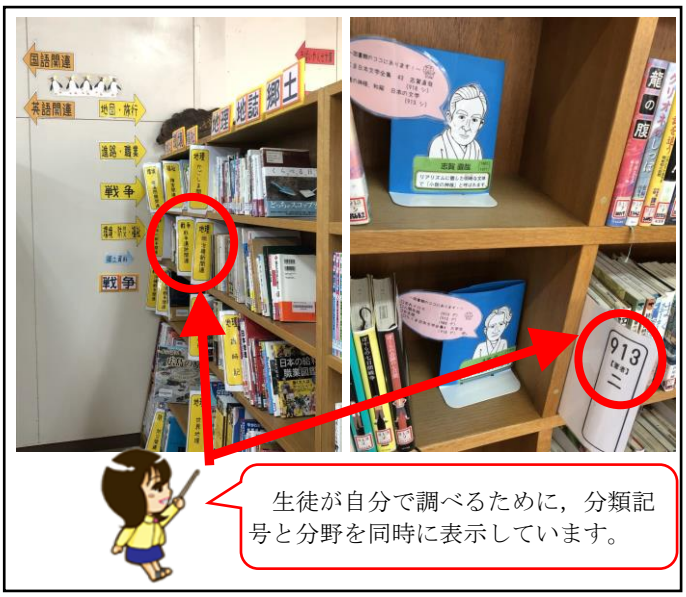
【手作りの新聞書見台】

（２）中学校の取組事例の紹介（鹿児島市立甲南中学校）

鹿児島市立甲南中学校では，学校図書館で様々な工夫を行っている。

① **本の配置の工夫**

「気になっていたこと，知らなかったこととの出会いを演出するコーナー」では，**著作者別掲示**，**教科や総合的な学習の関連**が目につきやすい掲示を行い，生徒の学習意欲をかきたてている。また，「眺めているだけでワクワクするお薦め本コーナー」では，**テーマ別紹介**を行っている。季節を感じるものや生徒・教師のお薦め本や新刊図書案内，著者別，地域別，寄贈図書文庫のコーナーなどを設置して，読書への誘いを行っている。



【気になっていたこと，知らなかったこととの出会いを演出するコーナー】

【眺めているだけでワクワクするお薦め本コーナー】

【フェアの本　司書お薦めの本コーナー】

② **イベントの企画・運営**

読書月間イベントブックカフェで，**吹奏楽部に演奏**してもらったり，生物に詳しい生徒を昆虫博士として昆虫の話をしてもらったりして，生徒たちの得意分野を披露する機会を設けることで生徒の自己有用感を高めるとともに，**学校図書館を交流の場**にしている。

【イベントブックカフェ】

③ **教科指導に関する掲示**

廊下に各教科の関係図書を紹介したり，**調べ学習の進め方フローチャートを掲示**して，**図書館の情報の見える化**を図り，生徒の学習への手掛かりをつかませている。

通りすがりの生徒や先生も一目で調べ学習の流れが分かるようアピールしています。

【調べ学習の進め方フローチャート】

（３）高等学校の取組事例の紹介（県立鶴丸高等学校・松陽高等学校）

【鹿児島県子ども読書活動推進計画改訂のポイント】
- **○　発達段階に応じた取組により，読書習慣を形成**
- **○　友人同士で行う活動を通じ，読書への関心の向上**

県では，平成 30 年 12 月に概ね５年間を目途に第４次計画が策定された。第３次計画の成果と課題を踏まえた改訂のポイントは２点ある。読書習慣の確立と読書への関心の向上である。不読率の改善〈高等学校現状：33.0%→H35 年度：26.0%〉，特に友人同士で本を薦め合うなど読書への関心を高める取組や発達の段階に応じた心に残る１冊の本との出会いが大切である。そこで，不読率の改善を行っている高等学校の取組を２例紹介したい。

9/18（水）Rugby Workshop
講師：ラグビー部員
「ﾗｸﾞﾋﾞｰW 杯間近！
みんなで盛り上がろう」

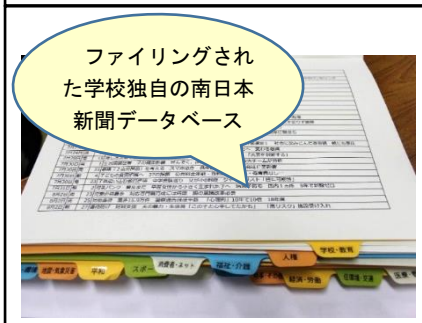
【県立鶴丸高等学校】

鶴丸高等学校は，**「不読率」ゼロへの挑戦**として，生徒が主役の悠學館（鶴丸高等学校学校図書館名）を目指している。

勉強する時間やメディアを利用する時間が放課後の時間の多くを占めている高校生の実態を鑑みると，高校生が多忙の中でも読書をするきっかけを作り出す必要がある。鶴丸高等学校では，図書館になかなか足が向かない生徒に興味・関心をもってもらうため，昼食時間に**お弁当を食べながら参加できるワーショップ**を行っている（図書館隣の研修室）。生徒から講師を務めたいという申し出があり，自発的なワークショップとして行われている。図書館から遠ざかっていた生徒も，講師の生徒やテーマに興味をもち，毎回 50 人ほどの生徒が参加する。実施後のアンケートでは，知らなかったことを知る喜びがあると，まさに，本を読む意義に通じる感想が寄せられた。図書館や本をいかに身近なものにするかがこの活動のポイントである。

【ワークショップの流れ】
- **☆　講師（生徒）の話し（30′）**
  ［自分の好きなことや得意なこと，調べたこと］
- **☆　質疑・応答（15′）**
- **☆　生徒が選書・紹介した本の貸出**
- **☆　本を囲んでの話合いや討論へ発展**

ひとくちメモ



【県立松陽高等学校】

松陽高等学校は，「総合的な学習の時間」（新学習指導要領「総合的な探究の時間」）において，生徒一人一人がテーマを設定して探究学習を行い，研究成果を論文にまとめる学習を実施している。そこで，**生徒のニーズに応え，関係図書を豊富に準備**する必要がある。松陽高等学校は普通科（文科，体育，書道，英語，理科の５コース）と，音楽科，美術科があり，生徒のテーマも多種多様で多岐にわたっており，学校図書館の蔵書だけでは限りがある。そのため，**他の県立高等学校図書館から資料を取り寄せ**たり，**県立図書館学校支援図書（50 冊以内／６週間）を利用**し，定期的に貸借したりしている。また，生徒の進路選択や課題解決等に資するために，司書が毎日の新聞記事から分野別に記事をピックアップして，ファイリングしている。**生徒が自らワード検索**することも可能である。

このように，これからの学校図書館には，読書の楽しさを知り，読書の幅を広げ，読書体験を深めるような機会を提供するとともに，そのための環境作りに努めることが必要である。また各教科等の**主体的・対話的で深い学びの実現**に向けた授業改善に資する役割が一層期待されている。

－引用・参考文献－『「学校図書館ガイドライン」活用ハンドブック解説編』　堀川照代著　悠光堂（企画課　古澤　聖子）